

学校保健

JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

平成13年11月1日

No. 239

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
<http://www.hokenkai.or.jp/>

(財)日本学校保健会

子どもの生きる力をはぐくむ 健康教育と学校経営

東京都文京区立千駄木小学校 校長 米 山 和 道



今、子どもたちの中には、突然切れる子や、人を傷つけたり、薬物乱用に走るなど自分の感情を理性で抑えられない子が出てきています。また、生活習慣病の兆候など、児童生徒の心身の健康が大きな問題としてとらえられます。こうした中、子どもたちに「生きる力」を基本理念とした学習指導要領が改訂されました。「生きる力」その基盤となる支えが健康な生活です。今こそ、生涯を通じて自らの生活を適切に管理し、健康なライフスタイルを確立させることが大切であると考えます。

学校教育を預かる者として、今回の学習指導要領は、健康教育の充実が求められたものであることと受け止めています。その展開にあたっては教員の実践力を高め、子どもたちに確かな知識や態度、基本的な行動が確実に身につくよう全教職員が指導者としての資格・能力の向上に努めることが必要となります。その具現の視点としては、次の2点を見直し、実践の構想について改善・工夫に努めることにあてると考えます。

ア、教員の意欲・資質に関しては、『教員相互の学び合いを通して教育活動を進める』

「元気に登校した子を元気に返す」「病気やけがの対応は子どもや保護者の立場になって」といった経営参画意識をもとにしたかかわりを通じて、常に健康な生活を心がける意識・実践をもたせることは、教師の意欲を背景に資質向上につながります。また、学年での協調やチームティーチングの取組みはお互いの学び合いのよさを実感できます。

イ、校内組織に関しては、『課題意識のもと、研究を通して組織の活性を図る』

健康教育の課題の解決のために、意見・話し合いの態勢づくりは組織の活性として大切です。また、「計画・実践・評価」をもとにした取り組みは、活動計画や内容をよりよいものにします。特に、体育の「保健」では、健康の大切さを早い時期に学び取ること（3・4年から保健学習の出会いを大切に）、「限られた学級活動の授業時数にあって保健指導の確保をはかること」など、実践的で活発な分掌の運営が重要になります。

学校が健康教育の充実を目指す上で「生きる力」が、言葉だけの歩みにならないためにも、見通しを立て着実な歩みをもって進めていくことが大切になります。

目 次

巻頭言	
子どもの生きる力をはぐくむ 健康教育と学校経営	…1
「特集」 新しくなる 「学校生活管理指導表」	…2
2001年の学校保健の 研究課題を踏まえて	…6
虎の門 (61)	…8
Q&A	…9
財団法人日本学校保健会編 図書一覧	…10
財団法人日本学校保健会 しおり一覧	…11

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。FAXでお寄せください。

乞御回覧

校 長 教 頭 保健主事 養護教諭

P
T
A

会 長 副会長

特 集

新しくなる「学校生活管理指導表」

日本学校保健会

心臓・腎臓等管理指導小委員会

委員長：本田 恵

委 員：飯高喜久雄、上原 健夫、梅嶋 功至、
柏 光佐子、菊池 敏夫、馬場 礼三、
原田 研介、松浦 信夫、村上 睦美、
山内 邦昭

指導・文部科学省：森光 敬子

文部科学省は、平成10年度に小・中・高等学校の学習指導要領を改訂し、小・中学校では平成14年度、高等学校では同15年度から新しい指導要領に添った学習を逐次実施しようとしています。この改訂に伴い、保健・体育の指導内容も新しくなります。

この改訂を受けて、日本学校保健会では「心臓・腎臓等管理指導小委員会」を設置し、平成12年度中に新しい「学校生活管理指導表（案）」を策定し、同13年度に同案をできるだけ多くの地域で試用し、使用上の問題点を集約・検討して成案を得、平成14年度からの全面的使用を可能とするよう努めてきましたが、ここに、別表の平成14年度版を作成したので報告し、全国的利用をお願いする次第です。

＜試用状況と使用上の問題点とその検討＞

関東、中京、関西、中国地区の一部と九州ほぼ全県で試用されたようです。

使用に当たっての意見としては、「小学生用」と「中学・高校生用」に分割されたこと、学習指導要領のほぼ全種目とその取り組み方によって運動強度が分類されていることで、「児童・生徒の指導が判りやすくなった」と概ね好評でした。しかし、一方では、ほぼ同じ理由から、「判りにくい」「複雑すぎる」との批判があったり、逆に、学校行事などの一つ一つを取り上げて運動強度分類を示してほしい、といった意見も寄せられています。

小委員会で検討の結果、小学生用と中学・高校生用に2分割したこと、体育の種目とその取り組み方によって運動強度を分類したこと、ならびに、運動強度分類の内容については、「ほぼ妥当」と考えられることから、大きな手直しは不要とされ、「小学生用」の運動部をクラブ、「中学・高校生用」の陸上運動を競技と変更するにとどめています。また、「学校行事、その他の活動」は「その行事や活動が、同年齢の平均的児童・生徒にとって「運動強度区分

の定義」のどの区分に属するかによって参加の可否を決定する」という小委員会の基本的姿勢が充分理解される必要がある、とされました。

今後、使用のキャンペーンと医師及び学校現場での使用の習熟が必要と思われます。

＜新指導表の基本理念＞

同年齢の平均的児童・生徒にとって、その身体活動が「ほとんど息がはずまない程度の運動（但し、等尺運動は含まない）」が軽い運動、同じく「少し息がはずむが、息苦しくはない程度の運動で、パートナーがいれば楽に会話ができる程度の運動で、等尺運動は強い運動ほどの力はいそいそこなわないもの」を中等度の運動、「息がはずみ、息苦しさを感ずるほどの運動で、等尺運動の場合は、動作時に歯を食いしばったり、大きな掛け声を伴ったり、動作中や動作後に顔面の紅潮や呼吸促進を伴うほどの運動」を強い運動と定義し、C区分の児童・生徒は軽い運動には参加可、D区分のものは軽い運動と中等度の運動に参加可、E区分の児童・生徒は強い運動にも参加できるもの、と定義しています。

この定義に従って教科体育の種目とその取り組み方を運動強度別に表示して現場での適用の利便性を図るとともに、文化的活動や学校行事・その他の活動もこの定義を準用することで指導の拡張性を可能にするよう取り計らっています。

また、この運動強度区分は、従来のように心あるいは腎疾患にのみ適用されるのみならず、運動制限を必要とするすべての児童・生徒に適用できることを目指しており、かつ、学校での休み時間や家庭での活動においても適用できることを目標にした運動強度区分定義にしています。

＜指導区分の決定にあたって＞

各運動強度区分の内容は、あくまで同年齢の平均的児童・生徒にとっての運動強度であり、管理指導を受ける当該児童・生徒にとっての運動強度ではないことを確認しておいてほしいものです。新指導表の中に掲げられているような運動内容であれば、その活動が本人にとって、例えより強い運動強度だと考えられても、当該児が提示されている活動内容が可能であると推定されれば、その強度まで許容できる指導区分に判定して下さい。旧指導表でのAからEまでの区分と、殆んど変化ないものと考え、そのような子供達が学校でどんな活動をしているかを知る資料としてご利用下さってよいと考えています。活動内容には、医師にとって馴染みの薄い言葉もあるかと思いますが、その取り組みは、学校現場のプロに任せて下さい。

運動部あるいはクラブ活動での試合やレースそのものは教科体育各種目の強い運動に相当するものと考えてよいと思われますが、そこに到るまでの過程には学校差、個人差が大きいことを考えて参加の可否を決定して下さい。また、運動部やクラブ活動は選手としての参加のほかに、記録係や強い身体活動を要求されない担当部署への参加もあることを考え、CやD区分の児童・生徒にも参加の機会を与えて下さい。但し、その場合には参加形態が条件付きであることは当然です。

＜指導表利用上の留意点＞

教科体育に掲げられている全運動種目を取り上げ、その種目への取り組み方によって強度を分類しています。旧指導表のように運動種目そのものによる運動強度分類をせず、学校現場での各指導区分児童・生徒のとりあつかいをできるだけ明確にしてい

ます。

指導表の中に具体的に例示していない活動も、運動強度区分の定義に従えば、各指導区分の子供達の当該活動への参加の可否を学校現場でかなり正確に判断できるものと考えます。

なお、球技種目においては、軽い運動と中等度の運動に全く同じ取り組み方が表示されているものがありますが、軽い運動は、「ランニングのないゆっくりな運動」であり、中等度の運動とは、「フットワークを伴う運動」であることから、両者の区別は学校現場ではその適応に混乱をきたすことはないと思われます。また、種目によっては、中等度の運動と強い運動の間に区分しにくい取り組み方があると考えられますが、「身体の強い接触」を伴わないものが中等度の取り組みであり、それを伴うものは強い運動とする、ことに留意して下さい。

「学校生活管理指導表」は、平成12年度に大きく改訂され、同13年度には、全国の約5分の1の地域で試用され、使用上の問題点を掘りおこし、委員会での問題点を検討した結果、ここに全国的使用に耐え得ると考えられる平成14年度版が完成しました。

新指導表は、小・中学校では平成14年度から、高等学校では同15年度から逐次実施されようとしている新学習指導要領の体育・保健体育の内容に添い、かつ、学校現場で利用しやすいものとする 것을目指し、そして何よりも、障害のある児童・生徒の運動に伴う不測の事故を可能な限り減少させ、それら児童・生徒の生活の質（QOL）を向上させ、安全でかつ、充実した、楽しい生活を実現することを目標に作成されたものです。

旧指導表からの転換で、主として管理指導区分を決定する医師の間に若干の戸惑いがあることを否認ませんが、新旧指導表のAからEの区分に原則として大きな差が生じないように配慮しています。医師も、学校現場も、新指導表の基本理念を理解して、児童・生徒のQOL向上に御協力下さい。

今後は、各種疾患の指導マニュアルや生活指導に関連した冊子やパンフレットを、新指導表に適合したものへと改訂していく予定です。

学校生活管理指導表 (小学生用)

氏名 _____ 男・女 _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 小学校 _____ 年 _____ 組 _____

①診断名(所見名) _____ ②指導区分 _____ ③運動クラブ活動 _____ ④次回受診 _____

要管理：A・B・C・D・E _____ 可(但し、)・禁 _____ または異常があるとき _____

医師 _____ 印 _____

【指導区分：A…在宅医療・入院が必要 B…登校はできるが運動は不可 C…軽い運動は可 D…中等度の運動も可 E…強い運動も可】

運動強度		軽い運動 (C・D・E は "可")		中等度の運動 (D・E は "可")		強い運動 (Eのみ "可")	
体育活動	運動強度	1・2・3・4年	5・6年	1・2・3・4年	5・6年	1・2・3・4年	5・6年
		長なわでの大波・小波・くぐり抜け、二人組での輪の転がし合い	体の調子を整える手軽な運動、簡単な柔軟運動(ストレッチングを含む)、軽いウォーキング	短なわでの順跳び・交差跳び、輪(投擲)、竹馬乗り、平均くずし、人倒し、一輪車乗り	リズムに合わせた体操、ポール・輪・棒を使った体操	長なわ(連続回転跳び)、短なわ(組み合わせ連続跳び)、引き合い、押し合い、すもも、引きすって通ふ、手押し車、かつき合い、シャトルランテスト	なわ跳び(連続跳び)、持久走、すもも、シャトルランテスト
運動	走・跳の運動遊び(運動) 陸上運動	いろいろな歩き方、スキップ、立ち幅跳び、ゴム跳び遊び	立ち幅跳び	かけっこ、簡単な折り返しリレー、ケンバ・跳び遊び	短い助走での走り幅跳び	短距離走(全力で)、リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び	
	ボールゲーム	キャッチボール		的あてゲーム、シャトルゲーム、バスゲーム、蹴り合い	攻め方、守り方		
目	バスケットボール(型ゲーム)	パス、ドリブル、シュート	パス、ドリブル、シュート	攻め方、守り方	攻め方、守り方		
	サッカー(型ゲーム)	パス、ドリブル、シュート	パス、ドリブル、シュート	攻め方、守り方	攻め方、守り方		
種	ベースボール型ゲーム	投げ方、打ち方、捕り方	バッティング、捕球、送球	攻め方、守り方、連携プレー	走塁、連携プレー		
	ソフトボール	パス、レシーブ、サーブ	パス、レシーブ、サーブ	攻め方、守り方、連携プレー	走塁、連携プレー		
目	ジャンダルジム	1・2・3年	4・5・6年	1・2・3年	4・5・6年	1・2・3年	4・5・6年
	器械・器具を使っている運動遊び(運動)	平均台	平均台	簡単な技の練習	簡単な技の練習	演技、連続的な技	演技、連続的な技
目	器械運動	鉄棒	鉄棒	足掻き回り、膝かけ下り上り、補助逆上がり	足掻き回り、膝かけ下り上り、補助逆上がり	片膝かけ回りの連続	片膝かけ回りの連続
	水遊び・浮く・泳ぐ運動	水遊び(シャワー)、水中での電車ごっこ、水中ジャンケン	水遊び(シャワー)、水中での電車ごっこ、水中ジャンケン	水遊び(シャワー)、水中での電車ごっこ、水中ジャンケン	水遊び(シャワー)、水中での電車ごっこ、水中ジャンケン	横跳び越し・支持でのかかえ跳び越しの連続	横跳び越し・支持でのかかえ跳び越しの連続
目	鬼遊び	1・2年	3・4・5・6年	1・2年	3・4・5・6年	1・2年	3・4・5・6年
	表現リズム遊び	まねっこ、リズム遊び、即興表現、ステップ	まねっこ、リズム遊び、即興表現、ステップ	模倣、ひと流れの動きで表現、リズムダンス(ロックやサンバを除く)、フォークダンス、日本の民謡の踊り	模倣、ひと流れの動きで表現、リズムダンス(ロックやサンバを除く)、フォークダンス、日本の民謡の踊り	リズムダンス(ロックやサンバ)、作品発表	リズムダンス(ロックやサンバ)、作品発表
目	雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート水辺活動	雪遊び、氷上遊び	雪遊び、氷上遊び	スキー・スケートの歩行、水辺活動	スキー・スケートの歩行、水辺活動	スキー・スケートの滑走など	スキー・スケートの滑走など
	文化活動	体力の必要な長時間の活動を除く文化的活動	体力の必要な長時間の活動を除く文化的活動	右の強い活動を除くほとんどの文化的活動	右の強い活動を除くほとんどの文化的活動	マーチングパレードなど体力を相当使う文化的活動	マーチングパレードなど体力を相当使う文化的活動
目	学校行事、その他の活動	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など
	学校行事、その他の活動	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など	運動会、体育祭、球技大会、スポーツ大会など

〔平成14年度版〕 学 校 生 活 管 理 指 導 表 (中学・高校生用)

平成 年 月 日

氏名 昭和 男・女 平成 年 月 日生 (才) 中学校 高等学校 年 組

①診断名(所見名)	②指導区分 要管理：A・B・C・D・E 管理不要	③運動部活動 ()部 ()年()か月後 可(但し、)・禁 または異常があるとき	④次回受診 ()部 ()年()か月後 可(但し、)・禁 または異常があるとき
医療機関	医師	医師	医師

【指導区分：A…在宅医療・入院が必要 B…登校はできるが運動は不可 C…軽い運動は可 D…中等度の運動も可 E…強い運動も可】

体育活動		運動強度	軽い運動 (C・D・E は "可")	中等度の運動 (D・E は "可")	強い運動 (Eのみ "可")
運動	体づくり運動	体ほぐし運動 体力を高める運動	いろいろな手軽な運動、リズムカルな運動、 基本の運動 (運動遊び) (投げる、打つ、捕る、蹴る、跳ぶ)	体の柔らかさ及び巧みな動きを高める運動、力強い動 きをもつ運動、動きを継続する能力を高める運動	最大限の持久運動、最大限のスピードでの運動、最大 筋力での運動
	器械運動	(マット、鉄棒、平均台、跳び箱)	体操運動、簡単なマット運動、バランス運動、簡単な 跳躍、回転系の技	簡単な技の練習、ランニングからの支持、ジャンプ・ 回転系などの技	演技、競技会、連続的な技
	陸上競技	(競走、跳躍、投てき)	立ち幅跳び、負荷の少ない投てき、基本動作、軽い ジャンプ	ジョギング、短い助走での跳躍	長距離走、短距離走の競走、競技、タイムレース
	水 泳	(クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バ タフライ、種泳ぎ)	水慣れ、浮く、伏し浮き、け伸びなど	ゆっくりに泳ぎ	競泳、競技、タイムレース、飛び込み
球	バスケットボール		パス、シュート、ドリブル、フェイント	ドリブルシュート、連携プレー (攻撃・防御)	簡易 ゲーム ・ タイム レース ・ ゲーム ・ 応用 ・ 練習 ・ 試合 ・ ラック、モール、スクラム、ラインアウト、タックル
	ハンドボール		パス、シュート、ドリブル	ドリブルシュート、連携プレー (攻撃・防御)	
	バレーボール		パス、サーブ、レシーブ、フェイント	スパイク、ブロック、連携プレー (攻撃・防御)	
	サッカー		ドリブル、シュート、リフティング、パス、 フェイント、トラップ、スローイング	ドリブル・ヘディングシュート、 ボレーシュート、連携プレー (攻撃・防御)	
技	テニス		グラウンドストローク、サーブ、ロビング、 ボレー、サーブ・レシーブ	スマッシュ、力強いサーブ、レシーブ、乱打	ラック、モール、スクラム、ラインアウト、タックル
	ラグビー		パス、キッキング、ハンドリング	パス、キッキング、ハンドリング	
	卓球		フォア・バックハンド、サーブ、レシーブ	フォア・バックハンド、サーブ、レシーブ	
	バドミントン		サーブ、レシーブ、フライト	ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ	
道	ソフトボール		スローイング、キャッチング、バットイング	走塁、連携プレー、ランニングキャッチ	ラック、モール、スクラム、ラインアウト、タックル
	野球		投球、捕球、打撃	走塁、連携プレー、ランニングキャッチ	
	ゴルフ		グリップ、スイング、スタンス	簡易ゴルフ (グラウンドゴルフなど)	
	柔道、剣道、(相撲、弓道、 なぎなた、レスリング)		礼儀作法、基本動作、受け身、素振り	簡単な技・形の練習	
ダンス	創作ダンス、フォークダンス		即興表現、手振り、ステップ	リズムカルな動きを伴うダンス (ロックやサンバを除 く)、日本の民謡の踊りなど	リズムダンス、創作ダンス、ダンス発表会
	現代的なリズムのダンス			スキー・スケートの歩行やゆっくりに滑走	通常の野外活動
	雪遊び、氷上遊び		水・雪・氷上遊び	平地歩きのハイキング、水に浸かり遊ぶ	登山、遠泳、潜水
	スキー、スケート、キャンプ、 登山、遠泳			サーフィン、ウインドサーフィン	カヌー、ボート、スキー、スノーボード、ダイビング
文 化 的 活 動		体力の必要な長時間の活動を除く文化的活動	右の強い活動を除くほとんどの文化的活動	右の強い活動を除くほとんどの文化的活動	体力を相当使って吹く楽器 (トランペット、トロン ボーン、オーボエ、バスーン、ホルンなど)、リズム のかなり速い曲の演奏や指揮、行進を伴うマーチング バンドなど

▼体育祭、運動会、球技大会、スポーツフェスティバルなどは上記の運動強度に準ずる。
▼指導区分"E"以外の生徒の遠足、林間学校、宿泊学習などへの参加について不明な場合は学校医・主治医と相談する。

2001年の学校保健の研究課題を踏まえて 平成13年度事業の中間報告

専務理事 内 藤 昭 三

本年度から専務理事の重責を担うことになった。学校保健の事業をすべて掌握し、新たな展開を期することの難しさをかみしめているが、その全容を紹介する機会は別にして、本年度事業の概要を述べることにする。(財)日本学校保健会寄付行為に示されたように、その目的はわが国の学校保健の向上発展に寄与するために行われるのであって、とくに昭和47年の保健体育審議会答申をうけ、同48年から文部科学省(現在)の委託による学校保健センター事業が発足し、従来から継続の一般事業とともに日本学校保健会の2大体系を形成している。尚センター事業は国庫補助金を受けて実施されるため企画運営委員会が設けられている。

平成13年度は、一般事業としては8種、学校保健センター事業としては13種、さらに内部の9小委員会を加えて計22種の合計30委員会を擁し、延347名の委員が従事するが、これらの委員の大部分は教職にあるか、または研究者でありながら、すべてがボランティアとして、本来の職務の他に寸暇を惜しみ、精力的に日夜研究・調査に励み、さらに資料の作成や刊行物の発刊まで、一連の作業を年間を通じ果たされていることに対し、心から感謝するとともに、類のないこれらの成果を学校保健関係者が十分に利用され、生涯にわたる健康管理と健康教育に役立てていただきたいと思う。

平成13年度の事業を支える委員会は次の通りである。

I. 一般事業を遂行するための委員会

* 新たに設置された委員会

①財政問題検討委員会：本会の年来の重要課題に財政基盤の確立があり、事業の推進には安定した収支とそれに見合った健全な運営が求められている。なかでも一般会計は平成9年度から歳入欠陥となっており、不足分を学校保健募金により補っている実情から、加盟団体拠出金の算定基準の一人当たり60銭を可及的すみやかに値上げする必要があると考えている。ただ、拠出金は法令外負担金に位置付

けられているため実現は困難で、いまだに据え置かれた状況にある。これらを打開するために財政全般を含め、検討委員会を設けて4回にわたり検討中である。

②全国表彰に関する検討委員会：学校現場における多くの健康課題に対し、校内のみならず家庭・地域社会を含み、積極的に取り組み成果を挙げている学校を、全国的なレベルで表彰し、一層の意識の高揚を図るとともに健康教育の推進に資するため、本年度より検討を始めた。現在、都道府県レベルでの表彰はあるが、全国的な制度を設けることによって、地方からの要望に応えることもでき、日本学校保健会が行う全国表彰は意義のあるものと考えている。10月に第3回の委員会を終え、これまでの検討事項をふまえて、表彰要綱の作成に入るところである。

③学校保健に関する検討委員会：新たに設置された本委員会は、副題に「地域学校保健委員会の活性化」を付している。現在2回の委員会を終了しているが、矢野本会会長は冒頭の挨拶の中で学校・家庭・地域が連携しないと、子どもたちの健康問題は解決できない事態になっているので、地域学校保健委員会として、どう対応し、どう取り上げたらいいか、新しい視点での役割を幅広く検討したいと述べられた。かつて平成5年に地域学校保健組織活動の推進をめざしてと題し、「地域学校保健委員会」のしおりが作成された。また平成12年には、学校保健委員会マニュアルが刊行されている。社会環境が変わっても学校保健委員会の役割は変わらない。そこで学校保健委員会及び地域同委員会の設置の促進と活性化、また学校保健及び安全に関する地域の人的資源の活用方策、日本学校保健会が取り組むべき課題は何かなどを中心に検討することになった。このことは、平成9年9月保健体育審議会の学校健康教育の実施体制の項で強調されているが、ここでも新しい展開を期待している。

* 従来からの主な委員会

④会報「学校保健」編集委員会：今年度は巻頭言

に新執筆者を入れる、毎号のテーマを決める、分かり易い記事を取り入れる、読み易くするなどのレイアウトを考えるほか、特集号の計画、Q&Aの再開など新機軸の内容をめざすことにした（年5回発行）。

⑤「学校保健の動向」編集委員会：近年、本会出版の「学校保健の動向」への評価は高く、本年も11月初旬の刊行をめざし、委員長以下多くの有識者で構成する執筆陣が、新たな構想をもって学校保健の現状とその分析を試み、内容の充実を図っている。特集は“学校保健と「すこやか親子21」”であって、その解説、学校保健と地域保健の連携、思春期保健と心の問題、ライフスタイルのあり方をめぐっての4項目により記述される。またコラムは6編を数え、いずれも新しい学校保健の動きをとらえている。本版から省庁再編による学校保健行政と国際学校保健の動向（IUHPE、タイ）が追加された。さらに資料編には最近の学校保健関係の通達や給食関連など、その他必要な統計も含まれて編集されるので、学校関係者には利用度が高く、特に専門職により記述されている本書は他に類を見ないものであって、学校保健への寄与は大きいと思う。

⑥学校保健に関する情報委員会：本会のホームページの運営状況として、アクセスの回数や提供内容の検討、アンケート調査の傾向と集計など、また関連ホームページとしてエイズ教育情報ネットワーク、薬物乱用防止教育、内分泌かく乱物質情報提供も併せ検討しながら、さらなる情報の充実を期している。

II. 学校保健センター事業を遂行するための主な委員会

§ 普及指導事業

①海外委員会：従来通り、海外の学校保健情報を収集し、年2回海外情報ニュースを発行している。（A4、4頁、緑色紙）。

§ 調査研究事業

②保健学習推進委員会：新しく保健学習の充実を図るため、前年度から引き続き精力的に委員会が開かれ、全体委員会と小学校、中学校、高等学校別の3小委員会を設けて研究の結果、平成13年2月には「3・4年生から始める小学校保健学習のプラン—新学習指導要領に基づく授業の展開—」を刊行し、さ

らに中学校用展開例、高等学校用展開例の研究を経て、同年9月には「実践力を育てる中学校保健学習のプラン」を発刊した。高等学校についても報告書がまとまり「意思決定・行動選択の力を育てる高等学校保健学習のプラン」が追加出版された。

③喫煙・飲酒・薬物乱用防止指導研究委員会：小委員会のとりまとめを目途に、一方では薬物乱用防止教育用語集の作成を計画し、採用用語の検討と執筆要領及び執筆者を選定した。また本年6月には平成13年度薬物乱用防止教育シンポジウムを文部科学省と共催で行った。

●薬物乱用防止教育参考資料作成小委員会：新規委員会であり、指導者用参考資料の検討や高校生用ソフトの作成を考慮し、現在は薬物乱用防止教育教材のうち、CD-ROM版について検討を行っている。

●薬物乱用防止教育教材作成小委員会：新たに小学校5年生を対象に小学校版パンフレットの作成を目的として、昨年度作成の中・高校生向けのパンフレットの修正などをふまえながら、参考資料とすることとし、その内容を検討している。

●薬物乱用防止教育ホームページ作成小委員会：ホームページの作成・更新を目的にした委員会であり、本年度は児童生徒向けホームページの完成を目指し、さらに高校生向けホームページ作成を目途として画面の採用や構成に鋭意検討中である。

●薬物乱用防止広報啓発活動推進小委員会：薬物乱用防止啓発映像を制作し、映像内容のチェック、業者の選定、大型カラーディスプレイ、街頭ビジョンによる放映、アンケート調査など一連のスケジュールを企画し実施中である。

④新興再興感染症対策研究委員会：本年度は中・高校生用結核予防対策パンフレット及び教師用性感染症対策参考資料（高校教員）の作成をめざして検討している。

⑤保健管理調査研究委員会：小委員会のとりまとめを予定している。

●健康診断調査研究小委員会：職員・就学時・児童生徒等の健康診断の改訂を目標として検討を始めている。（→学校における児童生徒等を対象とする健康診断についての基本的考え方の整理、21世紀の特殊教育における健康診断の在り方及び就学時健康診断など）

●心臓・腎臓等管理指導小委員会：心臓・腎臓疾

患等に対する学校生活管理指導表の改訂作業が終了し、小学生用と中学・高校生用に分けるなど平成14年度版が日の目を見るようになり、本号の特集として掲載され、またホームページにも提供することになった。

●視力矯正指導小委員会：眼鏡、コンタクトレンズに関する指導のための新規委員会が発足した。パンフレットを年度内に作成、配布の予定である。

⑥保健主事資質向上委員会：小・中・高計約2500校に対する実態調査を行い、1922校から回答を得た。本調査の実施については、項目の検討から調査結果の集計及び分析まで行われ、現在もなお進行中である。

⑦学校環境衛生推進委員会：全体会の中に小委員会を設け、環境衛生実態調査（化学物質含）と学校環境衛生の基準について検討中である。

●内分泌かく乱物質情報提供小委員会：年度内に開催予定である。

§ 健康増進事業

⑧保健室経営検討委員会：本年度から始まる新規委員会であり、保健室利用状況に関する全国調査を主眼として発足した。保健室経営の在り方についても併せ検討されている。

⑨児童生徒等歯・口の健康づくり推進委員会：新規委員会であり、委託団体9道府県にて推進事業が行われることになった。課題の整理など具体的な検討がなされている。

⑩エイズ教育調査研究委員会：昨年度に引き続き、中・高校生用のパンフレットを作成し、配布する予定である。

●エイズ教育情報ネットワーク小委員会：児童向けホームページを検討課題としている。

⑪児童生徒の健康状態サーベイランス委員会：平成12年度に行われたサーベイランス調査結果の解析と考察をもとに、報告書を刊行する予定である。

虎の門 (61)

ヒトと水

ヒトの体内には約70%の水が存在しているとされ、一日に約2ℓの水が何らかの形で摂取されて生命の維持、生存に欠くことのできないものとされています。

学校の水泳指導で利用されている一つの学校のプール水は、一人一日約10万人分の水量に相当し、また約15万円の水道料金にもなり

ます。

最近では、おいしい水を求めて、給水栓などに種々の器具を取り付けて水を使用している学校や家庭が多く見られます。その器具の性能や機能をよく知り、日頃から点検確認をして、安全・適切に使うことを心がけたいものです。

日常、何気なく使用している水

ですが、水の源をたどると偉大さが判ります。五風十雨という言葉がありますが、渇水時にならないと、その偉大さが忘れられていることが残念です。石をも通す水の力を念頭におけば、大切に使う心が自然に湧いてくるのではないのでしょうか。

(編集委員 杉下順一郎)

JES

「扁平足」

土踏まず、足の骨と骨とを結びつけている強い靱帯と、足裏を縦横に走っているたくさんの筋肉で保護されていて、足の敏捷性と安定性を合理的にバランスをとる大切な役目を果たしています。

靱帯はいくら鍛錬しても強くはなりませんが、それをカバーしている筋肉群は、使えば使うほど強靱になります。成長期の子どもにとっては、歩いたり、跳びはねたり、活発な動きによって足が鍛えられ、特に足指の十分な運動により、土踏まずが正常に形成されるのです。

足と靴のはなし(2)

運動が不足したり、つま先にゆとりのない靴を履き続けることにより、足や足指の運動が不足すると、筋肉が衰えて、足底のアーチ形状が崩れ、土踏まずが未形成の扁平足になり、敏捷性と安定性のバランスがとれなくなります。

JESシューズは、足アーチを正しく鍛える、スクールシューズです。



21世紀の健康

日本教育シューズ協議会
岡山市西川原1丁目11番6-1号
〒703-8258 TEL.(086)272-5463



Q 近年子どもの体力が低下しているといわれますが、
実態はどうなっていますか。

A まず体力という用語の意味について説明しましょう。体力は一般に行動体力（運動能力や筋力、肺活量、柔軟性など）と防衛体力（体温調節能力、免疫力など）に二分することが通説となっています。御質問の「体力」という概念は前者の行動体力の低下を指していることが多いようです。つまり、握力、柔軟性、敏捷性、持久力、そして走・跳・投などの身体能力が平成期に入ってから低下している、ということをご心配しての御質問と思います。

表は文部科学省が発表している「体力・運動能力調査」の結果です。近年になってからこの調査の内容が大きく変わりましたので、ここでは過去のデータとの比較が可能な項目についてお話ししましょう。

まず握力ですが、1965年、75、85、95、99年で比較すると、小・中学生はわずかに向上しているようですが、高校生では低下しつづけています。とくに17歳は1975年の46kgから43.3kgまで低下してしまいました。握力は筋力の代表的な指標ですから、ここで測られていない他の部位の筋力も低下している可能性があ

ります。1500m持久走についても、やはり高校生では明らかな低下傾向にあります。17歳では1975年には354.8秒でしたが、99年の値では372.2秒と約5%も遅くなっていました。この種目は全身持久性を評価する、健康度の評価に最も近い項目ですので、大変に気掛かりな傾向といえます。

走力（50m走）は、ごくわずかな変化しか表れていませんので解説を省きます。投力（ハンドボール投げ）は小学生から高校生まで、どの年齢でも低下しています。11歳では1965年も34.4mから1999年の30.3mへと4.1mも短くなりました。

以上は比較可能な種目のみ、男子のみの解説ですが、体力テストの合計点も明らかに平成期のバブル経済が崩壊して以来、低下をしつづけているようです。このように、日本人の子どもの行動体力はこのところ弱くなっている、といっても誤ってはいないようです。

一方、防衛体力に目を転ずると生活習慣病のリスク・ファクター指標などにも将来に不安を覚える傾向が散見されています。ライフスタイルの深夜化に伴って不定愁訴や寝不足感を訴える子どもが少なくありません。病気にかからない体力、防衛体力にも注目していただきたいものです。

児童・生徒の体力・運動能力

区 分	小学校						中学校			高等学校			区 分
	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	14 歳	15 歳	16 歳	17 歳	
握 力 (kg)													握 力 (kg)
昭和 40 年	...	...	...	...	17.3	20.2	24.0	28.8	35.4	(38.9)	(42.3)	(44.0)	1965 年
50 年	...	...	...	...	19.5	21.7	25.4	30.7	36.9	41.8	44.5	46.0	75
60 年	...	...	...	...	18.4	21.1	25.1	31.6	36.9	41.4	44.2	46.1	85
平成 7	...	...	...	...	17.9	20.8	24.8	30.4	35.9	39.5	42.3	43.6	95
11	9.6	11.4	13.2	15.2	17.3	21.1	25.4	31.3	36.9	39.2	41.3	43.3	99
上体起こし(回)													上体起こし(回)
平成 11 年	10.5	13.2	14.7	16.2	17.8	19.8	21.6	24.7	26.0	25.5	26.8	27.3	1999 年
長座体前屈(cm)													長座体前屈(cm)
平成 11 年	25.5	26.8	29.0	30.5	32.7	34.6	37.6	40.8	44.2	44.8	46.3	47.2	1999 年
反復横とび(点)													反復横とび(点)
平成 11 年	25.6	29.8	33.2	36.1	39.2	42.4	44.7	48.3	50.2	48.8	50.6	51.3	1999 年
20m シャトルラン(回)													20m シャトルラン(回)
平成 11 年	17.7	26.5	34.2	40.9	46.3	55.7	64.0	79.7	85.6	76.3	82.7	86.0	1999 年
持久走(秒)													持久走(秒)
昭和 40 年	...	...	...	...	...	...	397.1	385.3	373.9	(363.7)	(358.3)	(357.8)	1965 年
50 年	...	...	...	...	...	...	385.0	370.7	359.6	354.1	354.0	354.5	75
60 年	...	...	...	...	...	...	386.4	366.4	360.9	360.5	357.4	357.3	85
平成 7	...	...	...	...	...	...	403.1	379.3	371.1	383.2	377.1	377.7	95
11	...	...	...	...	...	...	419.0	383.2	368.2	386.7	376.5	372.2	99
50m 走(秒)													50m 走(秒)
昭和 40 年	...	...	...	...	9.1	8.8	8.5	8.1	7.8	(7.5)	(7.3)	(7.2)	1965 年
50 年	...	...	...	...	9.1	8.8	8.3	7.9	7.5	7.4	7.3	7.2	75
60 年	11.1	10.3	9.8	9.4	9.1	8.8	8.4	7.9	7.6	7.5	7.4	7.3	85
平成 7	11.5	10.7	10.1	9.6	9.3	8.9	8.4	8.0	7.6	7.6	7.5	7.3	95
11	11.7	10.7	10.2	9.7	9.3	8.9	8.5	8.0	7.6	7.6	7.4	7.3	99
立ち幅とび(cm)													立ち幅とび(cm)
平成 11 年	115.9	130.1	139.5	149.2	156.8	168.9	182.6	198.8	212.4	216.0	224.3	228.5	1999 年
ハンドボール投げ(m)													ハンドボール投げ(m)
(小学校はソフトボール投げ)													(小学校はソフトボール投げ)
昭和 40 年	...	...	...	...	29.8	34.4	19.5	22.2	25.2	(29.4)	(28.9)	(30.4)	1965 年
50 年	...	...	...	...	30.8	34.0	20.0	22.6	25.3	26.8	27.8	28.6	75
60 年	10.9	15.4	20.4	25.1	29.9	34.0	19.3	22.1	24.4	26.4	27.9	28.9	85
平成 7	9.6	13.3	17.7	22.1	26.6	30.4	19.4	21.9	24.7	24.6	26.1	27.1	95
11	9.5	13.3	17.3	21.9	25.7	30.3	19.4	22.0	24.8	25.0	26.7	27.4	99
合計点(点)													合計点(点)
平成 11 年	29.9	37.4	43.1	48.3	53.5	59.8	32.1	40.0	46.2	45.9	49.8	51.9	1999 年

資料 文部省「体力・運動能力調査報告書」

(注) 1「合計点」の得点基準は、小学校と中学校・高等学校とは異なる。2 昭和40年の高等学校は全日制高等学校のみである。3 平成10年度から「新体力テスト」により調査を実施している。4 中学校・高等学校では、持久走と20m シャトルランを選択実施している。

財団法人日本学校保健会編図書一覧

H13.10.1

書 名	判・P・定価	内 容	出版社
1 会報「学校保健」(年5回発行)	A4・P8 年間購読料 1,000円(送料込)	生涯健康で明るく、豊かに生きる子どもの育成を図るため、広く学校保健のさまざまな情報を全国の学校・関係団体等に提供する日本学校保健会の情報紙。	本 会
2 学校保健の動向(平成13年度版)	B5・P250 3,000円 (送料込)	わが国学校保健の動向を収録し、特集として学校保健と「すこやか親子21」(学校保健と地域保健の連携、思春期保健と心の問題・ライフスタイルのあり方)を取り上げています。学校保健に携わる人々に、広く活用していただきたい一書です。	本 会
3 養護教諭が行う健康相談活動の進め方—保健室登校を中心に—(平成12年度版)	A4・P88 1,000円	養護教諭が行う健康相談活動の進め方、保健室登校の意義及び対応、児童生徒理解等、教育現場において今後の実践活動に役立つ指導資料。	本 会
4 養護教諭の特質を生かした保健学習・保健指導の基本と実際(平成12年度版)	A4・P116 1,200円	養護教諭による保健学習へのかわり、保健の教科の授業を担当する教諭または講師になる制度改正、養護教諭の職務の特質を生かした保健学習・保健指導の授業の進め方、保健学習・保健指導の実際等、健康教育推進のための指導資料。	本 会
5 3・4年生から始める小学校保健学習のプラン(平成12年度版)	A4・P80 1,200円	新学習指導要領に基づく「小学校保健学習」の考え方や授業の進め方について、Q&Aと実践を通した事例を盛り込んだ絶好の手引き書。各学校で指導に当たる教員や教員養成大学の学生などにも最適の好書。	本 会
6 実践力を育てる「中学校保健学習のプラン」(平成13年度版)	A4・P94 1,200円	新学習指導要領に基づく「中学校保健学習」について、授業の展開例や学習方法等を記述した手引き書。各学校で指導に当たる職員や教職員養成大学の学生などにも最適の好書。	本 会
7 意志決定・行動選択の力を育てる「高等学校保健学習プラン」(平成13年度版)	A4・P80 1,200円	新学習指導要領に基づく「高等学校保健学習」の進め方について、理論編と実習編の二部構成により記述した手引き書。各学校で指導に当たる職員や教職員養成大学の学生などにも最適の好書。	本 会
8 みんなで生きるために—エイズ教育資料—(平成12年度改訂版)	A4・P85 1,000円	エイズに関する指導の機会及び進め方、指導計画作成上の留意点、指導の展開例等、最近情報に基づいたエイズ教育参考資料。	本 会
9 ゆたかな身体と心を育むための「望ましい生活習慣づくり」(平成11年度版)	A4・P134 700円	将来、健康障害の大きな原因となるであろう「生活習慣」について、子どもたちのそれは日常どうあることが望ましいか等について記述。	本 会
10 学校保健委員会マニュアル(平成11年度版)	A4・P64 500円	「なぜ学校保健委員会が必要か」「こんな会議です」から説きおこし、会議の進め方、運営の実践モデルを掲載、さらに「これから新たに学校保健委員会を開催する場合に必要なノウハウ」までを詳細に解説した学校現場必見の手引き書。	本 会
11 学校における結核管理マニュアル(平成11年度版)	A4・P76 700円	結核が、青少年にとっての恐るべき感染症であることは、今日においても変わらない。本書は、毎年のように「忘れた頃」を狙って発生する集団感染の防止を、国の「結核撲滅宣言」の趣旨を帯して、新たな視点からその対策を解説したものである。学校保健管理面での活用を切に望みたい。	本 会
12 学校生活におけるアトピー性皮膚炎Q&A(平成11年度版)	A4・P50 700円	アトピー性皮膚炎についての概念、病因、事例、対策等をQ&A形式で記述し、アトピー性皮膚炎を持つ児童生徒が教育の過程で不利益を被らないためには、学校内でどのような対策をとる必要があるかの情報提供を目的とした。	本 会
13 学校における水泳プールの保健衛生管理(平成11年度版)	A4 800円	水泳プールの衛生管理についてのノウハウを分かりやすく解説。	本 会
14 平成10年度 児童生徒の健康状態調査サバイランス事業報告書	A4・P200 2,000円	児童生徒の健康をめざす諸活動を企画し、実践していくには、まず、その全体像の把握が肝要である。本書は本会独自のサバイランス方式を通して、貴重な健康情報を集積している。ぜひ、保健活動に携わる諸氏の座右に備えていただきたい一書である。	本 会
15 教師のための心の健康問題の理解と対応(平成11年度版)	A4・P24 300円	心の健康問題の見方、とらえ方、かわり方を、子どもの心の発達に則して説明、さらに保護者への対応、校内及び外部関係機関との連携に言及、巻末にQ&Aを掲載、見やすいように各課題を見開きページで掲載した。現場教師のための好個の解説書。	本 会
16 学校において予防すべき伝染病の解説(学校関係者用)(平成10年度版)	A4・P22 400円	学校で予防すべき伝染病等について、医学的見地かつ教育的見地から指導・助言等を円滑に実施することが出来るように解説したもの。	本 会
17 新訂 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導の手引(中学校編)(平成7年度版)	A4・P120 1,631円	思春期の生徒の特徴を考え、喫煙・飲酒・薬物乱用について、健康への害を科学的にとらえた指導の手引。	第一法規
18 新訂 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導の手引(小学校編)(平成9年度版)	A4・P106 2,100円	児童の発達段階を考慮しライフスキル教育の手法を採り入れ各教科ごとに展開例を示した指導の手引。	第一法規
19 薬物乱用防止に関する指導—指導資料—(高等学校編)(平成9年度版)	A4・P80 1,260円	薬物乱用防止に関する指導の展開例など、基礎的情報や資料を豊富に提示した指導資料。	第一法規
20 薬物乱用防止に関する指導—指導資料—(中学校編)(平成9年度版)	A4・P80 1,260円	薬物乱用防止に関する指導の展開例や指導方法などわかりやすく解説した指導資料。	第一法規
21 児童生徒の健康診断マニュアル(平成8年度版)	A4・P120 2,039円	学校保健施行規則の一部改正に伴い、健康診断の実施、健康相談の活動を円滑に行うためのマニュアル	第一法規
22 健康的で快適な学校環境を目指して(平成10年度版)	B5・P236 2,835円	「学校環境衛生の基準」について解説するとともに、その基本的な進め方を中心にした解説書。	第一法規
23 改訂版 保健主事の手引(平成11年度版)	A4・P132 1,680円	保健主事が積極的に、その役割を果たせるよう、保健主事の職務について整理し体系化した手引。	ぎょうせい
24 学校における糖尿病の管理指導—小児糖尿病の手引—(昭和61年度版)	A5・P113 1,100円	学校現場において、糖尿病に対して行う適切な指導と助言の平易な手引き書	予防医学中央会
25 改訂 学校検尿のすべて(平成2年度版)	B5・P140 1,300円	集団検尿の実際、検診、管理と治療等を具体的に解説。	予防医学中央会

日本学校保健会は、学校保健に係わる多くの課題を委員会で協議・研究し、具体的な方策と資料を学校現場に提供する使命を担っています。
学校保健の充実のため、これらの出版物を活用していただければ幸いです。

財団法人日本学校保健会しおり一覧

H13.10.1

	し お り 名	判・P・定価	内 容	出版社
1	心因性視覚障害Q&A (平成12年度版)	A 4・P 10 150円	心因性視覚障害について、概念、病因、事例、治療等をQ&A方式で解説。学校医や養護教諭をはじめ、学校保健関係者に有益な小冊子。	本 会
2	児童生徒の眼の健康のしおり (平成9年度版)	A 4・P 12 150円	視力の知識等を適切にまとめたしおり。視力に関する指導等で役立ちます。	本 会
3	生きる力をはぐくむ 「歯・口の健康づくり」 (平成12年度版)	A 4・P 22 200円	各学校で特色ある活動を推進し、子どもたちに「生きる力」をはぐくむための「総合的な学習の時間」を充実する観点から、歯・口の健康づくりの新たな展開のプラン(小、中学校)を示した資料。教員及び学校歯科医にお勧め。	本 会
4	歯・口の健康づくりをめざして II —健康診断と保健指導の進め方— (平成10年度版)	A 4・P 20 50円	これからの学校歯科保健の推進にとって重要な課題を具体的にQ&Aの形式で。指導計画例、実践例も豊富に。	本 会
5	歯・口の健康と食べる機能 (平成10年度版)	A 4・P 18 150円	口腔機能のうち「食べる機能」を取り上げ、歯・口の健康づくりとの関連を重視して解説した手引。	本 会
6	歯周疾患予防のしおり (平成5年度版)	B 5・P 12 60円	歯を支える仕組み、歯周疾患の原因とその予防、小学校・中学校・高校における指導方法を具体的に写真入りで紹介。	本 会
7	子どもの心因性難聴Q&A 平成11年度版 (平成11年度版)	A 4・P 10 150円	学校保健の立場での心因性難聴への対応をいかにすべきか、Q&A方式で解説した冊子。	本 会
8	骨の健康づくり (平成9年度版)	A 4・P 18 100円	骨の健康づくりのための基本的な知識理解及び食事や運動など毎日の生活についての学校における指導の在り方やその内容について解説。	本 会
9	生活習慣からみた児童生徒の健康づくり のポイント (平成11年度版)	B 5・P 20 65円	気をつけましょう(肥満、やせ、高血圧、高脂血症、動脈硬化、糖尿病の病理学的因子)食生活のみだれ、健康づくりのための望ましい食生活・栄養バランス・運動・睡眠・ダイエットの注意等。	予 防 医 学 中 央 会
10	腎疾患児 管理指導のしおり(学校・学校医用) (平成4年度版)	B 5・P 12 55円	尿管の子どもをどう受け止めるか、暫定診断の目的。腎臓病管理指導表の見方。腎臓病管理指導及び管理区分の目安。管理の実施。	予 防 医 学 中 央 会
11	尿糖検査と糖尿病児 管理指導のしおり(学校・学校医用) (平成4年度版)	B 5・P 12 60円	尿糖検査をどのようにすすめるか、糖尿病とは?(診断法・2つの病型)、学校での管理・指導の実際、糖尿病管理指導表等。	予 防 医 学 中 央 会
12	心疾患児 管理指導のしおり(学校・学校医用) (平成10年度版)	B 5・P 12 55円	E-可とE-禁句分決定の目安、心電図心室肥大判定基準、学校現場のスクリーニングのオーバーリードに。心臓病管理指導表と活用、不整脈の管理基準等。	予 防 医 学 中 央 会
13	自動解析装置を用いた 学校心臓検診の手引 (平成7年度版)	A 4・P 2 60円	定期健康診断で心電図検査が義務化された心臓検診に自動解析装置やデータを網羅した検診の手引。	中 央 会
14	第2版 心臓手帳 (平成8年度版)	B 6・P 64 350円	心臓病の症状を正しく理解し、それに応じた生活の仕方、主治医・家庭・学校との連絡に。	予 防 医 学 中 央 会
15	第2版 腎臓手帳 (平成8年度版)	B 6・P 64 *350円	腎疾患の早期発見と早期治療、正しい管理指導の手帳として活用できる。	予 防 医 学 中 央 会
16	糖 尿 病 手 帳 (昭和60年度版)	B 6・P 62 250円	尿糖検査をどのように進めたらよいか、糖尿病とはどんな病気か、学校でどう指導すればよいか、などについて正しい知識の普及を図る。	予 防 医 学 中 央 会
17	知識と勇気へストップ・ザ・ドラッグ (小・中・高校生向の3種類)	B 5・P 20 各150円	薬物の有害性・危険性をコマ割りマンガやQ&A、大きなイラスト等で分かりやすく解説した小冊子。	東 京 法 令

* 図書・しおりの申込は郵送及びFAXで受け付けています。平成13年12月よりホームページにて受け付け予定。e-mail: tosyos@aioros.ocn.ne.jp

* 価格・割引・送料・消費税等について

・ 本会扱い図書合計購入価格(「学校保健の動向」(平成12年度版)を除く)

5,000円未満

価格+送料

5,000円以上10,000円未満

価格の5%引き(送料無料)

10,000円以上

価格の10%引き(送料無料)

・ 学校保健の動向(平成12年度版)

1~4冊→価格×冊数(送料込み)

5~9冊→価格×冊数の5%引き(送料込み)

10冊以上→価格×冊数の10%引き(送料込み)

・ 本会及び各出版社の図書の混合注文は、それぞれ別途発送・別途支払になります。また、割引等については各出版社にお問い合わせください。

・ 本会出版物→消費税なし

財団法人 日本学校保健会

〒105-0001東京都港区虎ノ門2-3-17 虎の門2丁目タワー6階

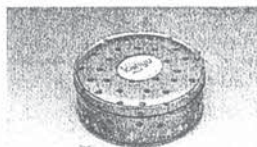
電話 03(3501)3785

FAX 03(3592)3898

購入者の方で、指定の請求書等が必要な場合は、購入申し込み書と共に郵送下さい。

カワイ肝油ドロップ

発育期に欠かせないビタミンが凝縮されたカワイ肝油ドロップは、「わんぱく」を応援します。



ビタミンA・D+ビタミンC



ビタミンA・D+カルシウム



製造 河合製薬株式会社 販売 河合製薬株式会社
東京都中野区中野6-3-5 ☎03-3365-1156(代)



学童の集団検尿に、 エームス尿検査試験紙。

エームス尿検査試験紙

ネフロスティックス®-L

体外診断用医薬品

バイエル メディカル株式会社
東京都渋谷区恵比寿1丁目19番15号

販売元：
三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3丁目5番1号

JU2099-S

からだに必要な 水分とイオンの補給に

(財)日本学校保健会推薦



ポカリスエット

商品に関するお問合せは
大塚製薬株式会社 03-3292-0021
ホームページ <http://www.otsuka.co.jp/>

風邪に関する教材 無料進呈致します。

風邪の季節となりました。
冬場の水分補給について
まとめた教材を無料進呈
いたします。お申込みは
下記「健康と料理社」まで
お問合せ下さい。

お問合せ：健康と料理社 東京都千代田区九段南 4-7-19 TEL03-5275-6838 / 担当 斉藤

NEW

●2つのノズルで、キズを清潔に
左に回すと 右に回すと
カチッ カチッ
スプレー ジェット
●スポーツやアウトドアに
効能: すり傷、きり傷、創傷面の殺菌・消毒に

狙ったポイントにシュバツと噴射!

●マキロンは「使用上の注意」をよく読んで、用法・用量を守って正しくお使い下さい。
【商品についてのお問い合わせ先】山之内製薬(株)製品情報センター
電話: 03-5916-5500 (9:00~17:00/土・日・祝日除く)

もっと、クスリにできること。
Yamanouchi
山之内製薬